



是永 宙 議員

こどもの育ちを支え、
孤立を防ぐ施策について

問 放課後のこどもの居場所のために「放課後子ども教室」を設置できないか

答 こども家庭庁の指針に基づき、多様な居場所の整備を検討していきます

問 子どもの孤立や移動については、保護者任せではなく、社会の課題であることを課題認識はされているか。

答 子ども未来部長

移動手段を含めて、子どもの周りに起きる困難は、子どもや家庭の要因、環境の要因等、様々な要因が複合的に重なり合って表出されると考えています。問題行動は子どもからのSOSであり、それをしつかり受け止めると同時に、保護者自身への支援を考えることが、子どもの孤立を防ぐために欠かせない視点であると考えています。

問 子どもの孤立を防ぐための課題は。

答 子ども未来部長

子ども達それぞれに合った居場所が必要であると考えますが、それらがすべて整備できている状況ではないと認識しています。

問 「放課後子ども教室」は子どもたちが、安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、放課後等に全ての児童を対象とし学習や体験・交流活動などを行う事業である。必ずしも毎日開設されるものではなく、地域事情にあわせて開設されるが、市内では設置されているのか。

答 教育総務部長

市での設置はありません。

問 子ども自身が希望する居場所に自力で行くことができない「こどもの移動」について、課題認識があるか。

答 子ども未来部長

課題であると認識をしています。

問 放課後の学校に居場所を作ることができると、どの子ども居場所に行くという選択肢を手に入れることができるか、どのように考えるか。

答 教育総務部長

放課後子ども教室は、移動をすることなく、無料で誰もが利用できるというメリットは認識しています。一方で、集団下校や、人材確保などの条件もあることから、放課後子ども教室だけでなく、様々な観点や要素から総合的に検討しなければならぬと考えています。

